©海事プレス社2023 禁無断転載

Daily Cargo

22年は2%増の2.7億TEU

■世界のコンテナ上位10港、3000万超が4港

世界のコンテナ主要10港の2022年通年（1～12月）のコンテナ取扱量が出揃った。10港合計で前年比2%増の2億7244万TEUとなった。上半期（1～6月）時点では6港がマイナスとなっていたが、上海港と広州港が下半期（7～12月）に巻き返し、通年で減少した港は4港になった。深圳港は初めて3000万TEUを突破した。21年からの順位変動は、青島港が広州港を抜き5位に浮上した。2000万TEUを上回ったのは8港となり、前年と同数だった。

各国政府や港湾当局などが23日までに公表したデータを基に、本紙が世界のコンテナ取扱量上位10港の22年実績を集計した。結果は表のとおり。新型コロナウイルスの感染拡大や上海市のロックダウン、ロシアのウクライナ侵攻、インフレの進行、欧米における在庫の積み上がりなどの影響を受けたものの、通年では物量の多い中国港湾のコンテナ取扱量が堅調に伸びた。この結果、上位10港の取扱量も過去最高を記録した21年実績を上回った。

上海港は13年連続で世界一となった。上半期は上海ロックダウンの影響で落ち込んでいたが、下期は持ち直し、9月から12月までは4カ月連続でプラスとなった。通年では過去最高を更新する0.6%増の4730万TEUとなった。

世界2位のシンガポール港は0.7%減の3729万TEUとなった。前年比で微減となったが、過去最高を記録した21年に次ぐ2番目の水準となり、コロナ前を上回っている。

3位の寧波・舟山港は、上海ロックダウンに伴い、上海港の代替機能を果たしたこともあり、7.3%増の3335万TEUと好調に推移した。過去最高を記録している。今年に入ってからも増加傾向にあり、1月実績はシンガポール港を抜き、世界2位に浮上している。

4位の深圳港は、初めて3000万TEUを突破した。5位の青島港は上位10港の中では最も伸び率が高く、8.3%増の2567万TEUと好調に推移した。広州港を抜き、5位となった。広州港は上期時点ではマイナスだったが、下期に回復し、通年では1.7%増の2460万TEUとなった。

7位の韓国・釜山港は2.8%減の2207万TEUだった。ロシアのウクライナ侵攻やグローバルインフレ、輸送の需要鈍化などが影響し、主力のトランシップ貨物も4.2%減の1176万TEUと落ち込んだ。一方で日本発着は全体で1.7%増の297万TEUと増加しており、日本発着トランシップ貨物も堅調に推移した。

8位の天津港は3.7%増の2102万TEUと増加。9位の香港は減少が止まらず、6.5%減の1664万TEUとなった。5年連続のマイナスとなった。

欧州で唯一トップ10に入っているオランダ・ロッテルダム港は、5.5%減の1446万TEUとなった。ロシア発着のコンテナ輸送が事実上停止したことが響いた。また、港湾ターミナル混雑や背後の配送センターが逼迫したことを受け、特にトランシップ貨物が他港にシフトするケースも出たようだ。ロッテルダム港湾公社は、「23年もインフレの進行などにより、欧州経済が停滞する」と予想しており、「貨物取扱量は若干減少することが予想される」としている。

2022年の世界主要10港のコンテナ取扱量　（単位：TEU、%）

順位	港湾	コンテナ取扱量	前年比
1	上海	47,300,000	0.6
2	シンガポール	37,290,000	▲0.7
3	寧波・舟山	33,350,000	7.3
4	深圳	30,040,000	4.4
5	青島	25,670,000	8.3
6	広州	24,600,000	1.7
7	釜山	22,070,000	▲2.8
8	天津	21,020,000	3.7
9	香港	16,640,000	▲6.5
10	ロッテルダム	14,460,000	▲5.5

欧州港湾はロッテルダム港に限らず、ロシアのウクライナ侵攻の影響を大きく受けている。ベルギー・アントワープ-ブルージュ港は5.2%減の1350万TEU、ドイツ・ハンブルク港は5.1%減の830万TEUといずれも5%程度のマイナスとなった。

北米港湾はロサンゼルス港が7.2%減の991万TEU、ニューヨーク／ニュージャージー港が5.7%増の949万TEU、ロングビーチ港が2.7%減の913万TEUとなった。西岸から東岸への貨物シフトが起こったことから、NY／NJ港が米国2位に浮上した。

このほか、中東のドバイ港は1.7%増の1397万TEU、中国の厦門港が3.2%増の1243万TEU、台湾の高雄港が3.8%減の949万TEUだった。